



芝山小だより

12 月号

清瀬市立芝山小学校

校長 清水 一臣

<http://www.kiyose.ed.jp/>

3年に一度の展覧会を終えて・・・

～子供たちの豊かな感性とひた向きの努力に拍手！！～

校長 清水 一臣



11月15・16・17日の3日間、3年に一度の展覧会が行われました。テーマは「アイデアいろいろ きて みて 芝山ミュージアム」。文字通り様々なアイデアを盛り込んだ、本格的な美術館さながらの展覧会となりました。

各学年の平面作品や立体作品、家庭科作品は、標準的な学年以上の素晴らしい出来栄で、一つ一つの作品は子供たちの豊かな感性と個性が滲み出たものばかりでした。

一方共同作品は文字通りアイデア満載の作品が展示されました。例えば「にじのトンネル」。体育館入口にいろいろな色の短く切ったすずらんテープを用意し、参観に来て下さった方々にも括り付けていただくことによって、参加型の作品となるよう意図しました。また、5年生が製作した「芝山の森」は、長く切った木綿を様々な色の染料で染め上げ、体育館のギャラリーからつるして下から見上げるように展示することによって、和の雰囲気や醸しだした幻想的な作品となりました。さらに、迫力満点の「龍神屏風」。大きな画面一杯に描かれた龍神の屏風絵は、6年生ならではの格調高い作品に仕上がりました。

今年度の展覧会の素晴らしさは、これら展示作品だけではなく、「こども学芸員」という活動を通して、高学年の子供たちに展覧会へのかかわりをより深く促したことにあります。5・6年生の子供たちが来館者の皆様に作品の見所や見方を解説することによって、作品を分かりやすく理解していただくとともに、子供とのコミュニケーションを通して作品をより一層身近に感じていただけるよう企画しました。とは言っても、解説する側の子供たちにとっては、自分が製作した作品ばかりではなく、他学年の作品に対しても解説をしなければならぬため、有吉先生から聞いた説明を理解した上で原稿に起こすなど、かなりの準備と勇気が必要だったと思います。参観された方々からは「『こども学芸員』の解説はとても素晴らしかったです。製作中の苦労や工夫などを聞いて、より興味深く見ることができました。」「5、6年生の学芸員の児童から『説明して良いですか』と話しかけてくれました。作品の制作の意図を知ると、また違った見え方がするのだなと思いました。」などの言葉をいただきました。やや緊張した面持ちで一生懸命に来客対応する高学年の子供たちの姿は、とても清々しくまた誇らしく感じられました。

このような素敵な展覧会を企画・構想してくれた図工専科の有吉涼子主任教諭をはじめ作品が仕上がるまで粘り強く励まし続けた学級担任、会場設営など協力を惜しまなかった全職員に感謝の思いでいっぱいです。本校は、展覧会、音楽会、学習発表会と3年サイクルの学芸的行事となっていますが、どの行事でもその時々の子供たちの個性と能力を引き出すべく教職員が一丸となって力を尽くしてまいります。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

